

第18回通常総会

2012年3月15日(木)

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

第18回通常総会次第

日時 2012年3月15日(木) 13時～14時

会場 広島市立大学講堂大ホール

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 2011年度論文賞, 第17回年次大会優秀発表賞の表彰
4. 議長選出
5. 2011年度事業報告
6. 2011年度決算報告, 監査報告
7. 2012年度事業計画 提案
8. 2012年度予算計画 提案
9. 2012年度評議員構成
10. 2012年度役員構成
11. その他
12. 閉会

以上

2011年度事業報告

1. 概要

言語処理学会の主要活動として論文誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました。「自然言語処理」に関しては、通常号と共に特集号を企画・発行しました。

第17回年次大会は、2011年3月7日(月)から11日(金)まで、豊橋技術科学大学で開催しました。初日のチュートリアル講演資料集の申し込みは269件、期間全体では、参加者総数600名超の聴講者がありました。情報処理学会と共催した前回大会を除けば過去最大級の活気あふれる大会となりました。

若手研究者への支援活動として、シンポジウムを主催しました。シンポジウムは、「NLP 若手の会第6回シンポジウム」と題して、9/21-9/22に奈良先端科学技術大学院大学で開催しました。

また、東北地方太平洋沖地震により被害を受けられた会員の皆様の2011年度(平成23年度)会費を免除する取り組みを行い、6件の会費免除申請を承認しました。

また、以下の会議に対して協賛を行いました。

- 1) 第7回ロボット聴覚システム HARK 講習会
名古屋工業大学 2012年3月9日

2. 会員現況 (2011年12月16日現在, 増減は2010年12月9日との比較)

正会員	779 (-1) 名
学生会員	143 (+4) 名
賛助会員	13 (±0) 組織 (14口 (-1))
定期購読会員	41 (±0) 組織 (47口 (-1))

3. 会誌の発行

18巻1号(2011年1月発行, 通巻79号)

巻頭言, 論文2編, 会告

18巻2号(2011年6月発行, 通巻80号)

巻頭言, 論文5編, 技術資料1編, 会告

18巻3号(2011年6月発行, 通巻81号)

巻頭言, 論文4編, 会告

18巻4号(2011年9月発行, 通巻82号)

巻頭言, 論文3編, 会告

4. 第17回年次大会の開催

- ◇ 開催日: 2011年3月7日(月)~3月11日(金)
- ◇ 会場: 豊橋技術科学大学 (愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1)
- ◇ プログラム:
[チュートリアル講演] (4件) 3月7日(月)
「強化学習の基礎と言語処理への応用」
伊藤 秀昭 氏(佐賀大学)
「形式意味論の考え方とその変遷」
戸次 大介 氏(お茶の水女子大学)

「Understanding sentences in Japanese」

Edson T. Miyamoto 氏(筑波大学)

「言語生成研究の動向」

徳永 健伸 氏(東京工業大学)

[特別講演] 3月9日(水)

「表現から意味へ: 言語処理技術と言語の科学」

辻井 潤一 氏(東京大学大学院, マンチェスター大学教授)

英国・国立テキストマイニングセンター 研究担当ディレクター)

[招待講演] 3月8日(火), 9日(水)

「ゲノムを読む」

榊 佳之 氏(豊橋技術科学大学学長)

「実務翻訳の現状と未来」

田中 千鶴香 氏(日本翻訳連盟理事・日本語標準スタイルガイド検討委員長)

[一般発表 講演発表] 3月8日(火)~10日(木) 発表件数 197件

[一般発表 ポスター発表] 3月8日(火), 9日(水) 発表件数 97件

[併設ワークショップ] 3月11日(金)

「自然言語処理における企業と大学と学生の関係」

パネル 3件, 招待講演 2件

(1) チュートリアル

今回のチュートリアル講演では、講師の皆様のご理解とご協力を得て、USTREAM によるライブ配信を実現しました。チュートリアル講演資料集の申し込みは 269 件あり、多数の聴講がありました。

(2) 予稿集

予稿集は CD-ROM のみとし、印刷版の制作を取りやめることにしました。これにより、大会の準備作業を簡素化できるとともに、原稿の提出期限を1週間程度遅くすることができました。ご不便をお感じになった参加者の皆様にはたいへん恐縮ですが、このような事情がありましたことをご理解いただければと存じます。

(3) テーマセッション

文系と理系の枠を越えた議論を目的として 11 回大会から設けられています。今回は以下の4つのテーマを設けました。

- 複合辞とモダリティ: 理論から応用まで
- 不自然言語処理 枠に収まらない言語表現の処理
- 日本語入力における言語処理
- Twitter と言語処理

いずれのセッションにおいても、活発な議論が交わされました。

(4) 招待講演, 特別講演

豊橋技術科学大学学長の榊佳之氏と日本翻訳連盟理事・日本語標準スタイルガイド検討委員長の田中千鶴香氏をお招きし、榊氏には「ゲノムを読む」、田中氏には「実務翻訳の現状と未来」という題目でご講演いただきました。また、紫綬褒章を受章された辻井潤一氏に特別講演として「表現から意味へ: 言語処理技術と言語の科学」と題するご講演をいただきました。

(5) ワークショップ

併設ワークショップが3年ぶりに復活し、盛況のうちに終了しました。

◇ 年次大会優秀発表賞

言語処理学会年次大会優秀発表賞は、年次大会において、論文の内容およびプレゼンテーションに優れたものと認められた発表論文に与えられる賞です。また、優秀発表賞のうち特に優れたものがあれば、最優秀発表賞として選定することが第11回からとりいられました。第15回大会からは、若手奨励賞が新設されました。

第17回年次大会プログラム委員会は、選考委員会での審議に基づき、次に示す1件の最優秀発表賞ならびに6件の優秀発表賞と2件の若手奨励賞を選定し、それが理事会に承認されました。

なお、17回大会から、従来よりも少人数の選考委員会を組織し、慎重な議論を重ねた上で選定する方式に変更しました。各授賞論文には議論で合意された授賞理由が付記されます。また、責任を明確にするために、最終選考に関わる委員の名前を公表することとしました。(授賞理由・最終選考委員名等、詳細はニュースレターをご覧ください)

最優秀発表賞 (1件)

- * C3-8 L1 正則化特徴選択に基づく大規模データ・特徴集合に適した半教師あり学習
- 鈴木潤, 磯崎秀樹, 永田昌明 (NTT)

優秀発表賞(6件)

- *B3-5 Web上の定義文からの言い換え知識獲得
 - 橋本力, 鳥澤健太郎, Stijn De Saeger, 風間淳一 (NICT), 黒橋禎夫 (京大)
- *D3-1 階層的モデルを用いた機械翻訳のためのフレーズアライメント
 - Graham Neubig (京大/NICT), 渡辺太郎, 隅田英一郎 (NICT), 森信介, 河原達也 (京大)
- *D4-2 原言語の起源に基づく潜在クラス翻字モデル
 - 萩原正人, 関根聡 (楽天)
- *D5-2 RIBES: 順位相関に基づく翻訳の自動評価法
 - 平尾努, 磯崎秀樹, Kevin Duh, 須藤克仁, 塚田元, 永田昌明 (NTT)
- *E1-5 分野に依存しない単語極性を考慮した評判分析のための転移学習モデル
 - 吉田康久 (NAIST), 平尾努, 岩田具治, 永田昌明 (NTT), 松本裕治 (NAIST)
- *F1-3 様相・条件・否定表現の言語学的分析に基づく確実性判断のためのアノテーション済みコーパスの構築
 - 川添愛 (津田塾大), 齊藤学 (中華大), 片岡喜代子 (九大), 崔榮殊 (一橋大), 戸次大介 (お茶大)

若手奨励賞(2件)

- *F3-5 数原良彦 (NTT) 評価指標をマージンに反映したオンラインランキング学習
- *P2-24 葛原和也 (名大) 構文構造に基づく英語表現の自動獲得とその評価

◇ まとめ

第17回年次大会は、294件の口頭・ポスター発表があった他、併設ワークショップも3年ぶりに復活し、参加者も600名を超えるなど、情報処理学会と共催した前回大会を除けば過去最大級の活気あふれる大会となりました。

年次大会は本学会会員にとって極めて重要な情報発信・交換の場となっており、今後も会員みんなで育てていく必要があると思います。ご意見、ご批判、ご提案などありましたら、今大会あるいは次回大会のプログラム委員会、実行委員会にお寄せいただければ幸いです。

5. ニュースレターの発行

2011年には、ニュースレター Vol.18 No.1 - No.3 の3号を発行し、学会運営、大会案内、論文賞などについて、会員への情報提供を行いました。これらのバックナンバーは学会ホームページでも公開しております。

6. 学会ホームページ等の整備

学会ホームページのコンテンツを英訳し、2011年8月に英語版ホームページをオープンしました。それ以降、主要なコンテンツは日英で掲載する体制といたしました。

7. 理事会の会議

計4回の理事会を開催し、入退会会員の承認、新任評議員の承認、事業計画、予算、論文賞選考、学会誌査読方式、年次大会の方針、年次大会優秀発表賞、関連学会等への協賛等について審議し決定しました。また、会費納入や学会誌作成、ニュースレター発行等の学会運営についても議論しました。その他、余裕が生まれた活動資金を有効に利用する方法について議論しました。

理事会開催:

- 第80回(2011年3月8日, 豊橋技術科学大学)
- 第81回(2011年6月28日, 国立情報学研究所)
- 第82回(2011年9月14日, 国立情報学研究所)
- 第83回(2011年12月19日, 国立情報学研究所)

8. 編集委員会

◇編集委員会の会議

2011年中に4回の編集委員会を開催し、自然言語処理に掲載する論文の審議をいたしました。

2010年1月より従来の査読方式から査読者2名の並列査読方式に移行し、査読の公正性・客観性の改善、そして採否決定の一層の迅速化に努めております。

2011年10月には、任期満了となる編集委員5名の退任に伴い、新たに12名の編集委員が就任し、**19名に増員した編集委員体制で並列査読に臨んでおります。**

また、学位取得における論文投稿者の便宜を図るために、**第75回以降の編集委員会の開催時期を1ヶ月程度前倒し、合わせて会誌の発行時期を早めてまいりました。**

編集委員会開催:

- 第76回(2011年3月29日 東日本大震災の影響によりメール審議に変更)
- 第77回(2011年6月29日 株式会社ネクスト)
- 第78回(2011年9月28日 株式会社ネクスト)
- 第79回(2011年12月20日 国立情報学研究所)

◇英文論文アーカイブ(IMT)への論文掲載:

情報関連学会による国際的な電子ジャーナルとしてのIMT(Information and Media Technologies)の第6巻に英語論文3件を提供することとしました。

◇2011 年度論文賞の選考:

論文賞は、採録論文 30 件程度につき 1 件を目途に授与することになっています(平成 18 年 1 月の編集委員会で提案し、理事会で承認)。

これに基づき、2011 年に出版された自然言語処理 18 巻 1 号から 4 号に掲載された論文 14 件から論文賞に相応しい 1 件を推薦することを目標として、期間中の各号に掲載された論文のうち、査読点数が 5 点満点で 4 点以上の論文 5 件を対象に、以下の手続きで候補論文の選考を行いました。

(1) 個々の論文を 1 から 5 の選択肢とし、推薦すべき論文がない場合を選択肢 6 として、都合 6 つの選択肢から、選考対象論文の著者を除く編集委員の全員が、全論文を読んだ上で各自 1 票投票する。投票は過半数の投票者で有効とし、投票者数の過半数の得票が取れたもの(1 件)を論文賞に推薦する。ただし、

- ・過半数得票がないときは、上位 2 件、各自 1 票で再投票し、1 件を選ぶ。
- ・得票が同率のものがあれば、再投票の対象に加える。
- ・過半数投票が「該当なし」のときは、論文賞の推薦はなしとする。

(2) 一回目投票では過半数得票がなかったため、高得点を得た上位 2 件の論文を第 2 次候補論文とし、再投票を行ない、その最多得票の以下の論文 1 件について審議し、これを論文賞候補に推薦することに決しました。

タイトル：「文書量に不変な定数—Yule の K, Golcher の VM—」

著者：木村大翼，田中久美子

発行号頁：Vol. 18 No. 2 pp. 119-138

◇自然言語処理の電子化

創刊号から 2008 年度までの本誌の全件が、JST の電子アーカイブ事業により無償で電子化され JST のサイト Journal@rchive で公開されています。また、2009 年度以降の本誌も、上記 Journal@rchive と一体的に運営されている J-STAGE で公開されており、新規に出版されたものは三ヶ月後に電子化され公開されます。すなわち、**現在、創刊号から、紙媒体で出版後三ヶ月経過した号まで、常時、電子的に閲覧可能**となっております。

◇査読迅速化施策の効果

現在、査読迅速化のため一月以内に査読を完了した査読者に図書カードを進呈する施策を実施しております。以下の 3 つの尺度で測定しましたところ、施策の効果を確認できました。

【平均査読日数＝一回あたりの査読にかかった日数の平均】

1. 図書カード進呈実施前(2006.5-2008.12.31):38 日
2. 図書カード進呈実施後(2009.1.1-):26 日

【査読期限遵守率1＝一回の査読が一ヶ月以内に完了する割合】

1. 図書カード進呈実施前(2006.5-2008.12.31):56%
2. 図書カード進呈実施後(2009.1.1-):82%

【査読期限遵守率2＝すべての査読を一ヶ月以内に完了する査読者の割合】

1. 図書カード進呈実施前(2006.5-2008.12.31):48%
2. 図書カード進呈実施後(2009.1.1-):81%

また、論文投稿から査読プロセス終了時までの期間と並列査読の実施の関係も注視す

べき点ですが、当該期間は並列査読後二ヶ月近く短くなりました。

【査読プロセス期間】

1. 並列査読実施前(2009.1.1-2009.12.31):163 日
2. 並列査読実施後(2010.1.1-):104 日

以上

2012年度事業計画

1. 運営・活動方針

言語処理学会の主要な活動として、論文誌「自然言語処理」を定期的に発行するほか、特集号の企画・発行を行い、年次大会を開催します。また、これらの論文誌や年次大会で発表された研究の内容を広く内外に流通させるとともに、会員の自然言語処理の研究発表を支援することも本学会の重要な役割と考え、活動を進めて参ります。

研究発表を支援する活動としては、昨年同様、若手の会が企画したシンポジウムの支援を行います。また、国際交流に関しては、いままで、特にアジア・太平洋地域の関連学会の連合組織 AFNLP の活動への協力を行ってきました。今年度も予算の許す範囲で、このような研究活動の支援を継続して実施します。

当学会では、収益の拡大と節約を旨とする皆様のご努力により、活動資金に余裕が生まれてきました。今後は、会費の引き下げや、年次大会におけるプログラム委員長および大会実行委員長の負荷軽減などについても検討し、収支のバランスのとれた学会運営を目指していく予定です。当面の具体的な施策については、「6. 学会の活性化と会員サービス向上のための施策」で説明します。

2. 会誌の発行

- ◇第19巻第1号(2012年3月下旬発行予定、通巻83号)
- ◇第19巻第2号(2012年6月下旬発行予定、通巻84号)
- ◇第19巻第3号(2012年9月下旬発行予定、通巻85号)
- ◇第19巻第4号(2012年12月下旬発行予定、通巻86号)

以上の通常号のほか、「情報アクセスのための言語処理とその評価」および「不自然言語処理：枠に収まらない言語の処理」の2号の特集号を予定しています。

3. 第18回年次大会の開催

3.1 日時, 会場

日時: 2012年3月13日(火)～3月16日(金)
会場: 広島市立大学
3月13日(火) チュートリアル (13:00～17:30)
3月14日(水) 本会議 第1日 (9:00～18:00)
3月15日(木) 本会議 第2日 (9:00～18:00)
総会 (13:00～14:00)
招待講演 (14:00～16:00)
懇親会 (18:30～20:00)
3月16日(金) 本会議 第3日 (9:00～18:00)

3.2 賞の名称

第17回年次大会までの「(最)優秀発表賞」を「(最)優秀賞」と改名します。

選考規定(http://www.anlp.jp/rules/annual_meeting_award.html に掲載)は第17回年次大会からの変更はありません。

4. ニュースレターの発行

原則として、前年と同様の回数と内容で発行する計画です。学会メーリングリストを通じて配布します。これらは学会ホームページにバックナンバーとして公開します。

5. 会議

◇総会

通常総会を2012年3月の年次大会で開催します。

◇理事会

昨年度同様に開催します。予算のゆとりを会員に還元する施策・事業、論文等の電子的公開、年次大会の開催、他学会との連携などについて審議します。

◇評議員会

総会に合わせて2012年度第1回会合を開催します。学会全体の活動の活性化に向けた施策、関連する研究分野との交流の促進などについて議論します。

◇編集委員会

編集委員会は会誌の発行に同期させて年4回開催しつつ、メールによって迅速な論文審査を目指して運営します。また、英文誌の発行も視野に入れながら、会誌をより活性化する施策を精力的に検討していきます。また、管理の電子化ツールについても、検討を続けていきます。

6. 学会の活性化と会員サービス向上のための施策

当学会では、収益の拡大と節約を旨とする皆様のご努力により、活動資金に余裕が生まれてきました。昨年度の理事会で、この活動資金を有効利用するための施策について議論を重ね、次のような方針を立てました。

- (1) 現在の繰越金のうち、約1700万円を、学会の活性化および会員サービス向上のための資金とする。
- (2) このうち約1000万円を、2012年度より3年間で執行する。

本年度は、その1年目として、次の4件の施策を実施します。

- (1) 過去の年次大会発表論文集の電子化(予算:130万円)
これまでのすべての年次大会の発表論文集を電子化し、公開します。
- (2) 学生会員の会費の割引(予算:28万円)
学生会員を増やすために、時限措置として、学生会員の会費(4000円)を半額(2000円)に割引します。
- (3) 論文誌別刷代の割引(予算:100万円)
論文掲載数を増やすために、論文誌の別刷代を一律5万円に割引します。
- (4) 論文誌の活性化(予算:80万円)
論文誌の活性化・国際化を進めるための施策を実施します。

これらのうち、(2)と(3)は収入減となります。また、(1)と(4)は支出増となります。このため、上記の施策を実施すると、予算上は、338万円の赤字となります。予算の透明性を確保するために、2012年度末に、1700万から今年度支出予定の338万円を引いた、1362万円を一般会計から切り離し、特別会計「活性化基金」を設置します。来年度以降のこの資金の使用法については、一般会計の収入と支出の状況を見つつ、健全な財政維持と学会の活性化、会員サービスの向上のバランスを考慮して、毎年、見直します。

7. 2012年度評議員構成

2010－2013年度評議員		2012－2015年度評議員	
神門 典子	国立情報学研究所	奥村 学	東京工業大学
安藤 真一	日本電気株式会社	江原 暉将	山梨英和大学
村田 真樹	鳥取大学	青野 雅樹	豊橋技術科学大学
大野 将樹	電気通信大学	竹内 和広	大阪電気通信大学
山本 幹雄	筑波大学	井形 伸之	富士通株式会社
二宮 崇	愛媛大学	延澤 志保	東京都市大学
木村 泰知	小樽商科大学	下畑 さより	沖電気工業株式会社
佐々木 裕	豊田工業大学	木戸 冬子	東京大学
藤井 敦	東京工業大学	鈴木 久美	マイクロソフト
富浦 洋一	九州大学	宮尾 祐介	国立情報学研究所
榊井 文人	北見工業大学	野本 忠司	国文学研究資料館
坂原 茂	東京大学	岩山 真	株式会社日立製作所
荻野 紫穂	日本アイ・ビー・エム株式会社	松尾 義博	日本電信電話株式会社
秋葉 泰弘	日本電信電話株式会社	木下 聡	株式会社東芝
神崎 享子	国立国語研究所	橋本 力	情報通信研究機構
佐良木 昌	日本大学	賀沢 秀人	Google
柴田 勝征	福岡大学		
増市 博	富士ゼロックス株式会社		
計18名		計16名	

8. 2012年度役員構成(2012/03/15 修正版)

役員名	氏名	所属
会長	中岩 浩巳	日本電信電話株式会社
副会長 (総編集長兼務)	隅田 英一郎	情報通信研究機構
理事 (編集委員長)	徳永 健伸	東京工業大学
理事(編集担当)	乾 健太郎	東北大学
理事(編集担当)	山崎 誠	国立国語研究所
理事(編集担当)	相澤 彰子	国立情報学研究所
理事(事業担当)	佐藤 理史	名古屋大学
理事(事業担当)	菊井 玄一郎	岡山県立大学
理事(事業/渉外 担当)	颯々野 学	ヤフー株式会社
理事(渉外担当)	関根 聡	ニューヨーク大学/楽天株式 会社
理事(渉外担当)	小原 京子	慶應義塾大学
理事(財務担当)	田口 大悟	日本電気株式会社
理事(総務担当)	福本 淳一	立命館大学
理事(総務担当)	白井 清昭	北陸先端科学技術大学院 大学
理事(総務担当)	宇津呂 武仁	筑波大学
		(以上15名)
監事	浦谷 則好	東京工芸大学
監事	斉藤 博昭	慶應義塾大学
		(以上2名)
顧問	長尾 眞	国立国会図書館
顧問	飯田 仁	東京工科大学
顧問	辻井 潤一	マイクロソフトリサーチアジア
顧問	島津 明	北陸先端科学技術大学院 大学
顧問	中川 裕志	東京大学
顧問	石崎 俊	慶應義塾大学
顧問	橋田 浩一	産業技術総合研究所
		(以上7名)

会誌編集委員会2012-2013年度		
総編集長	隅田 英一郎	情報通信研究機構
編集委員長	徳永 健伸	東京工業大学